

## 千葉市水環境・生物多様性保全計画の全体構成図

本計画が目指す「基本理念」と、それを実現するための3つの「取組みの柱」や施策の方向性を記載した計画書の構成を図示すると、次のような関係になっています。

## 基本理念

## 水の環(わ)はぐくむ

## にぎわい輝く生命(いのち)のつながりを

## 子どもたちの未来へ

## 第1章 策定の趣旨

本市は、「千葉市水環境保全計画」を策定し、河川や海域、地下水の保全・再生を総合的に推進してきました。

一方、近年では、生物多様性の損失が進んでおり、喫緊の課題となっています。

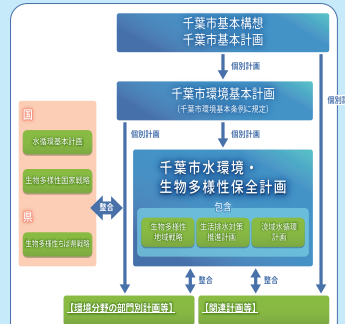
本計画は、社会情勢や本市の特性等を鑑み、水環境及び水循環の健全化、生物多様性の保全に資することを目的として策定し、様々な取組みを推進していきます。

## 目標、施策の具体化

## 第2章 計画の基本的事項

1. 対象区域
2. 計画期間
3. 位置付け

(2023年度～2032年度)



## 施策の推進

## 第3章 現状と評価

1. 千葉市の概況
2. 水環境や生物多様性に関する現状
3. これまでの取組みと評価
4. アンケート・ワークショップ

課題の解決

## 第4章 施策の展開

## 取組みの柱 1. 水環境の保全活用

- (1) 水環境・水循環の理解の促進
  - 水環境・水循環の普及啓発
  - 学びの場の充実
  - 学校教育等との連携

【指標】水環境や水循環について理解している市民の割合<100%>

- (2) 豊かな水辺(河川、海岸、湧水地など)の保全・創出
  - 多自然川づくりの推進
  - 水辺の保全
  - 水辺とのふれあい
  - 良好な景観維持

【指標】多自然護岸整備河川等の延長(累計)<17,449m(2029年度)>

- (3) きれいな水(水質)の保全
  - 汚濁負荷の抑制
  - 河川の浄化
  - 海域の浄化
  - 地下水の保全

【指標】水質環境目標値(生活環境項目)達成率<100%>

- (4) 水資源の持続可能な利用
  - 地下水の適正な利用
  - かん養機能の確保
  - 水源かん養域の保全・再生

【指標】単年度沈下量2cm未満の地点数の割合<100%>

- (5) 地域の水辺とふれあう機会の創出
  - 水辺にふれあう機会の提供
  - 親しみある川辺の充実
  - 親しみある海辺の充実

【指標】自然観察会等の参加者数・開催数(累計)<2,450人、140回>

取組みの柱 3は、取組みの柱

## 取組みの柱 2. 生物多様性の保全再生

- (1) 生物多様性・生態系の理解の促進
  - 生物多様性・生態系の普及啓発
  - 学びの場の充実
  - 学校教育等との連携

【指標】生物多様性について理解している市民の割合<100%>

- (2) 豊かな緑(水源林、谷津田など)の保全・創出
  - 谷津田の自然の保全
  - 緑の保全・創出
  - 公共施設や開発行為等における緑化等の推進

【指標】谷津田の保全協定締結面積<80.17ha>

- (3) 貴重な動植物の保護及び外来生物対策
  - 貴重な動植物の保護及びそれらの生息・生育環境の保全・再生
  - 外来生物対策
  - 有害鳥獣対策

【指標】貴重な生物(ハゲボ、ホアカリ等)の生息数<増加>

【指標】特定外来生物(哺乳類)の防除数(累計)<2,350頭>

- (4) 生物多様性がもたらす資源の持続可能な利用
  - 生物多様性を守るための行動の普及
  - 谷津田等の自然体験の場としての利用
  - 木育の推進

【指標】家庭系食品口量<2,900t(8.3g/人・日)>

- (5) 地域の自然とふれあう機会の創出
  - 地域の自然にふれあう機会の提供
  - 谷津田の自然の維持管理
  - 親しみある地域の自然の充実

【指標】自然観察会等の参加者数・開催数(累計)<2,450人、140回>

1,2それぞれの施策の実現を支えます。

## 取組みの柱 3. 計画の推進体制の整備

- (1) 人材の確保・育成
  - 担い手となる人材の確保
  - 担い手となる人材の育成
  - 環境教育・環境学習の推進

【指標】ボランティア育成講座の受講者数・開催数(累計)<1,200人、60回>

- (2) ボランティア等の活動支援
  - 活動自体への支援
  - PR面での支援

【指標】地域環境保全自主活動事業補助金の交付団体数(累計)<30団体>

- (3) 市と市民等によるモニタリング体制の整備
  - 市民やボランティアとの連携
  - モニタリングや調査研究データの収集・分析

【指標】貴重な生物(ハゲボ、ホアカリ等)のモニタリング地点数<14地点>



自然体験教室

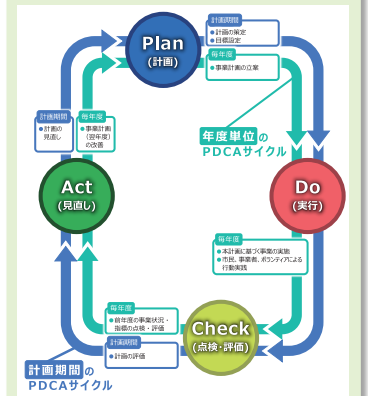


ホテル調査

## 第5章 計画を進めていくために

計画の推進のため、「市民」、「事業者」、「ボランティア」及び「市」のあらゆるステークホルダーと連携しつつ、国、県、近隣自治体とも理解と協力を得ながら計画を推進します。

計画の進行管理にあたっては、前述した全ての主体と連携しつつ、PDCAサイクルの手法に基づき、計画の点検・評価や、見直し、改善を図ります。



## 資料編

1. 市民アンケート調査結果
2. 水質・水量調査結果
3. 生き物調査結果
4. 環境基準・水質目標値・レッドリスト
5. 策定の経緯
6. 他計画との関連
7. 用語集
8. 委員名簿
9. 協力機関、協力者